

心理学科の会

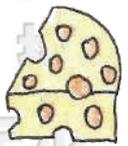


さいころしん

西生田キャンパス



第26号



目白キャンパス



児模倣 力学 フロイト

先生方に特大インタビュー！

さいころじん 26号

目次

西生田キャンパスについて	p2
両キャンパスについて	p4
遠隔授業についてのアンケート	p6
2年生アドバイザーの先生方へインタビュー！！	p10
先生方のコロナ禍のリラックスタイム	p18
藤崎先生に聞いてみた 研究者としての先生	p22
RRA 2021年活動報告	p24
心理学科の会 総会報告	p26
ロボホンがやってきた！！	p28
心理学科あるある	p29



観察法 夢分析 遊戯療法 新生
療法 内田クレペリン
ロイト ロールシャツハ



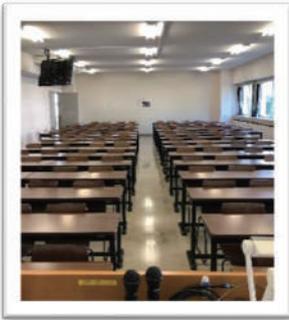
西生田キャンパス

2021年に人間社会学部が目白キャンパスへ移転し、キャンパスが統合されました！
この記事では、心理学科の学生として過ごした西生田キャンパスについて振り返って紹介したいと思います(^^)/
西生田キャンパスをよく知らない方には、自然に囲まれてのびのびと過ごせる素敵なキャンパスがあったことを知っていただくと嬉しいです！



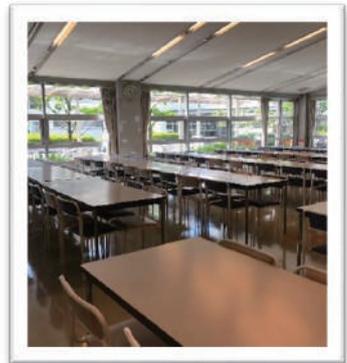
↑背景は九十年館 A 棟

心理学科の中央研究室や個人研究室の他、コンピュータ演習室などがあります



←15 番教室

ストロープ効果やミュラーリヤー錯視、ラットの観察実験など、心理学実験 I は主にこの教室で行われましたね(^^)/
思い出深い教室です！



←B 棟 2 階の食堂

お昼時は空いている席を見つけるのが大変でした…！
「今日は何を食べようかな」と楽しい気持ちでメニューを見ていました☺
みなさんは何のメニューが好きでしたか？

↑B 棟 1 階の学生ホール

ここでお昼ご飯を食べたり、空きコマに友達と勉強をしたりお喋りしたりして過ごしました！
時期によっては卒業袴の展示会や、生協学生委員の催し物（パッチテストなど）が開かれていましたね！



↑大学グラウンド

西生田キャンパスで一番早く日が沈む場所らしいです！
冬の社会スポーツ実習の授業が寒くて暗かったのも印象的です(笑)



↑A 棟（図書館）の外観です！

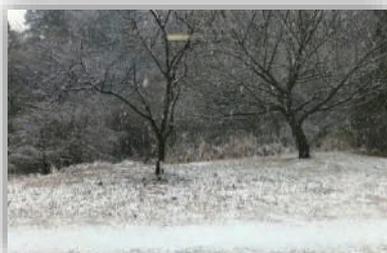
図書館から教室への移動など、雨の降る日は A 棟と B 棟をつなぐこの屋根？の下を歩いていました☺

<西生田の四季>

季節を感じられる写真を集めました！！



山登りは大変でしたが、今思うと
いい運動でしたね！
季節の自然を眺めながら歩くの
も気持ち良かったです!(^^)!



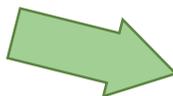
<西生田の動物達>



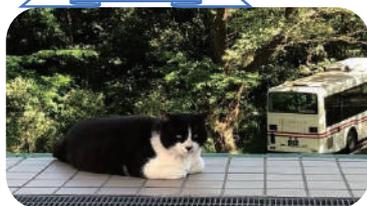
西生田の山は、自然にあふれており、登下校中にもカサカサという音や、鳥のさえずりなどによって、様々な動物の生命を感じていました。現在、オオタカやアライグマ、タヌキなども生息しているらしいです。

いつもよりも帰りが遅くなってしまったときは、もしかすると今日こそタヌキに会うことが出来るのではないかと少しワクワクしたりもしました。実際に会ってみると、思っていたよりも小さめでとても可愛かった覚えがあります。

あ、タヌキだ！！



ポジ



さらに、西生田キャンパスでは、ポジという白と黒の猫が心理学研究室に向かう入り口の付近にいて、いつも癒されていました。なかなか触らせてくれない子なのですが、声はかわいいらしいです。

一度で良いから声を
聞いてみたかった…！

西生田キャンパス

目白キャンパス

創立 120 周年を迎えた 2021 年 4 月に西生田キャンパスにある人間社会学部が目白キャンパスに移転しました。

図書館



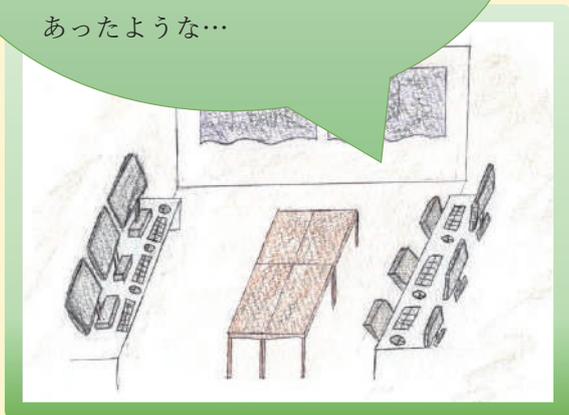
4階建ての建物。それ程広くはないはずなのに不思議と人の気配が薄く、読書やレポート作成に集中できる環境でした

開放感のある図書館には約 65 万冊の蔵書があり、レポート作成には欠かせません！



実験室

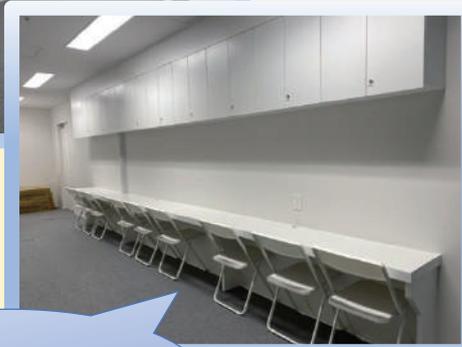
壁に沿ってパソコンが置かれており、実験室というよりは隠れコンピューター室のイメージ。入口近くの棚には、これまでの卒論がまとめられたファイルがあったような…



黒を基調とした各実験室は防音室になっていて卒論、修論の作成で大活躍！



白を基調とした心理学実験室前室です



プレイルーム

地下1階なのに、暖かい雰囲気のある部屋でした。研究法やゼミで利用

西生田の部屋にあった棚がそのまま移動しました！

百二十年館2階にあります



棚にはぬいぐるみやおもちゃが沢山！



コンピューター演習室

演習室は3つ。特に第1演習室は解放感のある部屋で、基礎情報処理や心理学統計法の授業で利用

春に第1演習室の窓からバス停の桜が綺麗に見えたのは西生田ならではの

コンピューター演習室は1から7まであり、こちらもレポート作成で大活躍！



百二十年館2階にあり、窓ガラスで覆われている為、日当たり抜群！明るい雰囲気です

個人研究室前

地下1階。西生田キャンパスの中で一番奥まった場所という印象。ここで行われていたゼミもありました！



遠隔授業についてのアンケート

オンライン授業って実際どう？

— 本学大学生99名に匿名調査！ —

調査に協力してくれたのは、日本女子大学の学生99名（1年生22名、2年生25名、3年生31名、4年生21名）です。

* 遠隔授業を受けたことのある学生さんに匿名で回答していただきました。

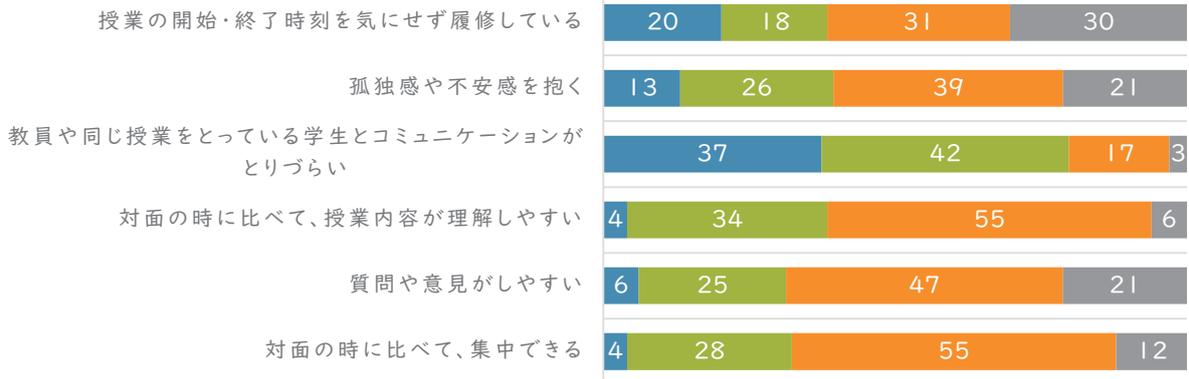
回答にご協力くださった方々、
本当にありがとうございました！



双方向型授業(ライブ授業)

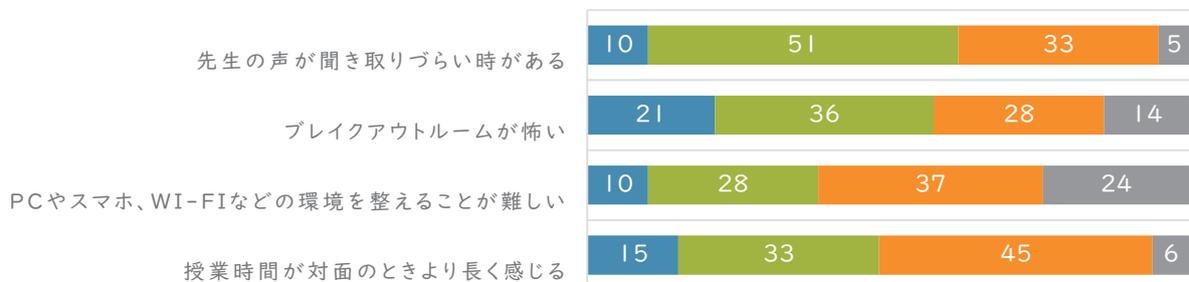
共通質問

■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない



追加質問

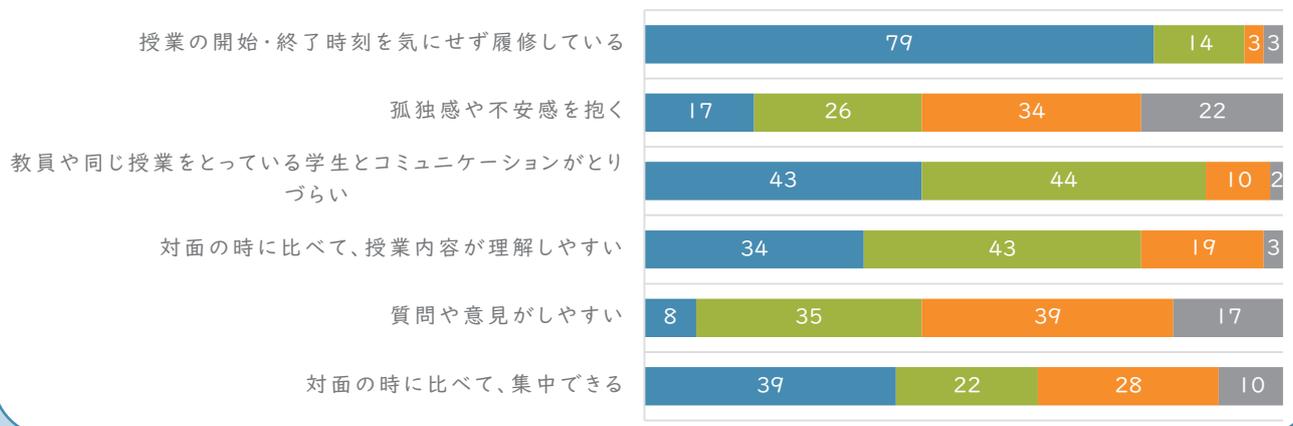
■ とてもそう思う ■ まあそう思う ■ あまり思わない ■ 全く思わない



動画配信型授業

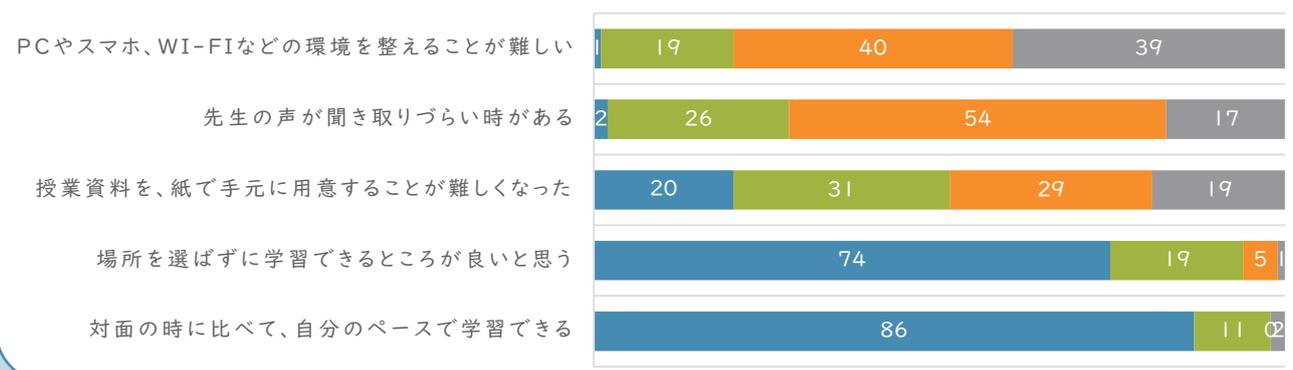
共通質問

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまり思わない ■全く思わない



追加質問

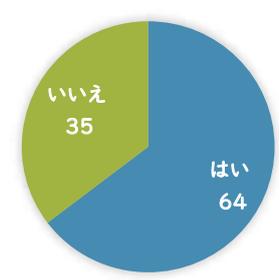
■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまり思わない ■全く思わない



Q.集中できる動画の長さは？



Q.動画は見返しますか？



Q.どんな時に見返しますか？(自由記述)

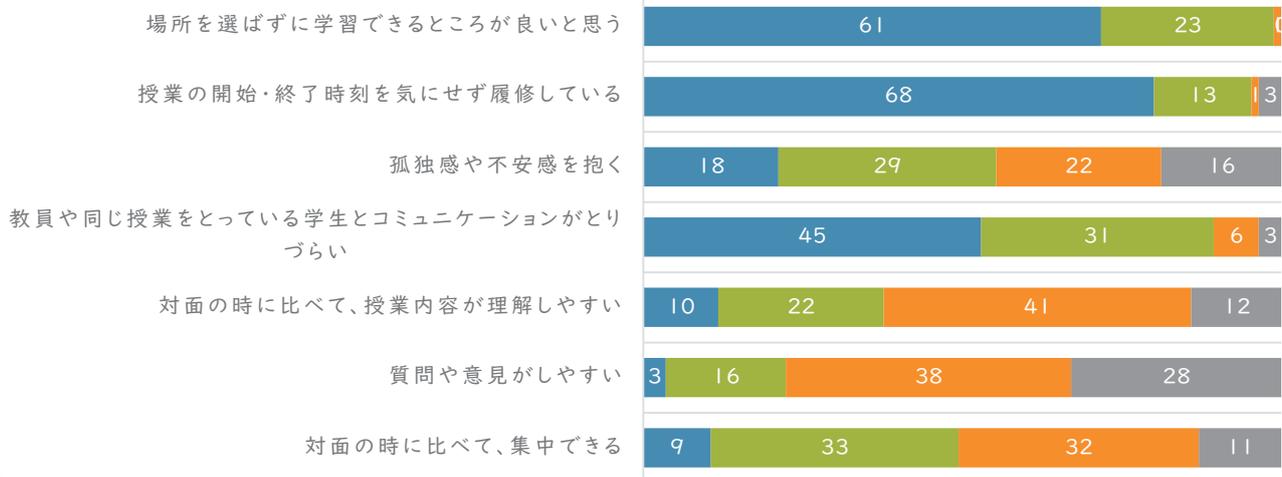
- こんな回答が多かったです！
- ・授業で理解できなかったとき
 - ・復習するとき
 - ・メモを取り忘れたとき
 - ・聞きとれなかった(聞きそびれた)とき
 - ・授業の課題(リアベ、小テスト)を提出する前
 - ・中間課題、最終課題、テストの前



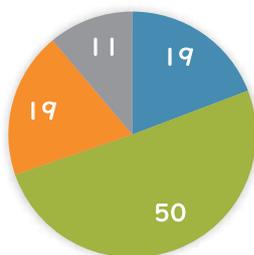
資料配布型授業

共通質問

■とてもそう思う ■まあそう思う ■あまり思わない ■全く思わない



遠隔授業 総合満足度



■とても満足している
 ■まあ満足している
 ■どちらともいえない
 ■あまり満足していない
 ■全く満足していない

最も受けやすいと感じた授業の形式は？



■双方向型授業(ライブ授業)
 ■動画配信型
 ■配布資料型
 ■その他(対面等)

担当者からのコメント

担当T.M. :

やはり多くの方がコミュニケーションのとりづらさをデメリットとして感じている一方で、動画配信型や資料配布型は特に自分のペースで時間や場所を選ばずに学習できる良さもあり、自分なりに様々な工夫をしながら学習していることを知ることができました。今回のアンケートが、学生や先生方にとって改めて何か考えるきっかけに少しでもなれたなら、嬉しい限りです。

担当T.A. :

「集中できる」が他の形式に比べて、ライブ型授業で最も低いことが意外でした。動画配信型授業が、ライブ型授業を比較すると、「意見がしやすい」「コミュニケーションがとりづらい」共により高いことも興味深かったです。顔が見えて同じ時間を共有するライブ型授業の特性が、意見のしやすさを低下させる一方で、コミュニケーションをとれているという意識を与えているのかなと思いました。

工夫していること・先生方に提案したいことを教えて！

オンライン授業に対して「工夫していること」「先生に提案したいこと」を自由記述で回答してもらいましたので、紹介します！

※似ている回答はまとめていますので、ご回答していただいた文章とは多少異なることもあります。ご了承ください。

工夫していること！

資料は対面授業の日にまとめて印刷+事前に予習

換気で眠気対策！

時間割通りに授業を受ける
タイマーや倍速再生を使う

課題提出日から逆算
して優先順位をつける

集中できそうなときに進める



友人と同じ授業をとる

机を整理して、
集中できる環境をつくる

PC周辺編

- ・ブルーライトカットソフトを入れる
- ・スクリーンショットの活用
- ・PCの高さを空き箱で調整
- ・iPadなどのタブレットを使い、PDFに直接書き込む

オンデマンドをまとめて受けて
自主休校日を作る

先生方に提案したい！

〈授業資料について〉

- ・なるべく公開形式や資料の共有場所を統一してほしい。
- ・OneDriveで共有すると、印刷ができないことがあるので、授業資料（スライドも）は全て印刷可能にしてほしい。
- ・パワーポイントの資料は、pptより、pdfのほうが印刷しやすいのでpdfにしてほしい。
- ・パワーポイントに音声より、動画にしてほしい。

〈授業動画について〉

- ・20分の動画に分割するのではなく、60分1本にまとめてほしい。（反対に分割してほしいという意見も！）
- ・my share pointではなく、streamやYoutubeにしてほしい。
- 聞きとれず、もう一度聞きたい時にスライドの一番最初から再生されて、聞きたい15秒のために3分間同じ内容を聞くことがあるため。
- ・動画配信型の場合、複数のサイトで閲覧可能にしてほしい。

〈課題について〉

- ・提出期限を、例えば「12月15日0：00」ではなく、「12月14日23：55」にしてほしい。
- ・全授業で、リアベの提出と、そのフィードバックを取り入れてほしい。ほかの学生さんの意見も知れて面白いため。

〈その他〉

- ・質問ができる場所を指定してほしい。（メールなのか、マナバの掲示板なのか）
- ・授業時間の前後で、対面とZOOMがありPCをもって行かないといけないため、対面の日をまとめてほしい。
- ・雪等で対面が厳しいと判断した場合、ZOOMに切り替えたりと、併用してほしい。

川崎先生コメント

オンライン講義は「自由」に受講できる分、「自己制御」が求められてちょっと辛いですね。深夜のメチギリギリの課題提出の多いこと…。みなさんの苦勞をお察しします…。

アンケートを見ると、やはり「コミュニケーション不足」がしんどいし、ものたりないですね。でも、こうやって意見を出し合うと「そうそう」と思えたり、教員も「じゃあつぎはこうしよう！」と思えたりします。「対面」が減っても「対話」はできる、ということですね。どんどん提案や意見を出し合って、あたらしくておもしろい大学生活を一緒に作っていきましょうと思います。

伊村先生コメント

調査の結果、とても興味深く拝読しました。オンライン授業は、学生のみなさんの工夫や努力のおかげでなりたっているのだと、あらためて感じました。動画配信型の授業では「自分のペースで受けられる」という意見がありましたが、実際にじっくり考えられた深いコメントや質問が増えているように思います。一方で、「コミュニケーションのとりづらさ」や「同じ授業をとっている学生の意見も知りたい！」という意見については、今回のように意見を出し合いながら、あたらしい方法を探っていけたらと思っています。

2年生アドバイザーの先生方へインタビュー！！

2021年度の2年生アドバイザーの先生方（塩崎先生、藤崎先生、中神先生）にインタビューをさせていただきましたので、その質問のいくつかを抜粋してご紹介します！！
塩崎先生には2021年の一週間の過ごし方について、藤崎先生にはオンライン授業制作について、中神先生にはコロナ禍での先生方の動き（2020年～現在）について伺いました！



塩崎先生 × 一週間の過ごし方について（2021年～）

	月	火	水	木	金	土 ※	日 ※
	大学	カウンセリング、大学	大学	大学	大学（午後）		
午前	メールチェック 院生のオンライン授業（1,2限）	学外でのカウンセリング（13:00まで）	対面授業（1限） 院生のスーパーヴィジョン	院の対面授業（月に1度、1,2限）	実習指導 外部講師 ※	授業 学会関係の仕事 入試の面接 など	外部の仕事 学会関係の仕事 入試の面接 など
午後	院生個別指導（3限） 対面ゼミ（4限） 書類作成（学科関連書類）	一時帰宅後大学へ 対面授業（5限）	院生のスーパーヴィジョン 事務仕事 対面授業（4限）	学内会議（学科会議、教授会、学科長会など）	対面授業（5限）		
月火水金の17時以降に会議が入ることもある（委員会関連の会議）							

※週によって異なる

↑インタビュー内容をもとに作成した塩崎先生の一週間の過ごし方を図にしました！

○コロナ禍で大学の先生方同士の交流に変化はありましたか？

—今年に大学に行った際に先生方とお会いして、仕事の合間で話をする事は去年よりは増えたかなと思います。でもコロナ前に比べたら格段に減っていて、心理学科はもともと教員同士仲が良く、みんなで飲みに行く機会もありましたが、コロナ禍でそういう交流がなくなりました。ただ、学科の運営全体についての話し合いはオンラインで結構していて、例えば臨床の教員は週に1回から2週間に1回くらいは必ずオンラインで会議をやって、4人で実習や相談室の運営についての話し合いをしています。あとは、大学内でも他の先生方とも話し合うこともあります。西生田キャンパスの研究室と異なって、目白キャンパスの研究室はガラス張り、部屋にいるかいないかが分かるので、〇〇先生がいるから話そうかなみたいなのは今のキャンパスではやりやすくなったと思います。

○西生田キャンパスから目白キャンパスに移転して、何か生活に変化はありましたか？

—自宅を引っ越したこともあります。交通の便が良くなったので通勤は格段に楽になりました。一回家に戻って夕食の準備をしてから大学に行くとか、6時からのオンライン会議がある時は、授業が終わって家に帰ってから会議に参加できるようになったことなどが目白に来て良かったと思うことです。西生田のときは片道に2時間かかっていたので、目白に移転して通勤が楽になったからこそ大学に来る日数を増やすことができました。そこが一番大きい変化だと思います。

○塩崎先生の日本女子大学以外での活動についてお聞きしたいです。

—実は、カウンセリングを今年の4月から十数年ぶりに復活しました。子どもを育てていたというのもあるし、カウンセリングセンターの所長をしていた時は、センターの仕事で拘束される日が多かったので、外で臨床の仕事をする時間が取れませんでした。でもずっと、自分の臨床をやらないと臨床の腕がどんどん落ちていってしまうという焦りがありましたので、臨床の仕事を再開したいと思っていて、昔働いていたところから、火曜日は空いているから働いてもらえないと言われていたので、この4月から火曜日の午前だけカウンセリングの仕事を開始しました。あとは、保育園のコンサルテーション（保育園の先生たちの相談に乗る仕事）を単発で金曜日に行っています。保育園に行って子どもの様子を観察し、困っているお子さんの対応などを一緒に考える仕事です。それとは別に、区役所や市役所、子ども家庭支援センターなどから研修会を頼まれて講師をすることもあります。非常勤講師は、放送大学の授業を担当していますが、授業の映像は既に撮ってある映像が毎年使われますから、授業のための出勤はありません。ただ、テストの採点をしたり、ときどき質問が送られてくるので、それに答えたりしています。あまり負担感はないですね。筑波大学の大学院の集中講義も担当していて、集中講義で年間4日程度行っています。本の執筆に関しては、一冊を何人かで章を分けて書くということも含めると、年に一本くらいは何か書いています。今年は、以前出版した本の再編集をしました。

○どういう研究をされているんですか？

—一つは、保育園のコンサルテーションに関する研究で、保育園の先生方と心理士がどのように協働して、子どもたちの心理的な育ちを支えていくかということの一つの研究テーマとしています。これは実践がそのまま研究につながるものです。もう一つは、親子のコミュニケーションが子どもの主体性・自発性の発達にどのように影響するのかについての研究で、妊娠中からの縦断研究に関わっています。抑うつ状態の両親と子どもの親子関係を妊娠期から継続的に追跡していて、その子たちが今年11歳になり、子どもと両親のコミュニケーションの観察研究をしています。

○仕事と家庭の両立はどのようにしていたのですか？

—とにかく必死に突っ走ってきた感じがあるので、両立できていたかどうかよくわかりません。生田に通っていた頃は通勤時間が長かったので、大学に行く日に仕事を詰めて、週3日くらいで済むようにしていました。遅い時間に会議が入ったり5限に授業がある時は保育園のお迎えに間に合わないの、ベビーシッターとか横浜市の子育てサポートシステムを利用したりして、何とか乗り切ってきたという感じです。子どもが小さいうちは仕事を制限してあまり無理をしないようにしていましたが、少しずつ仕事を広げて増やしていくという風にしてきたと思います。

子育てを支援する制度は一層整っていくと思いますので、サポート資源の情報を集めてうまく活用し、一人で頑張りすぎないことが大事かなと思います。私自身、がむしゃらに頑張りすぎないようにすることがとても大事だと思っているので、すごく疲れてしまったら1日は何もせずにゆっくり体を休めるように工夫しながら、自分の精神状態が追いつめられないよう気を付けてきました。それはたぶん心理学を学んでいたことに助けられた部分も大きいと思います。特に臨床の経験から、自分の限界ラインを超えないようにというのはいつも心がけていました。

○最後に学生に向けてのメッセージをお願いします。

一女性は多様な生き方ができると思います。仕事も、一旦就いた仕事を結婚や子育てのために辞めるということもあるかもしれないけれど、辞めた後にまた新たな選択ができるというか、別の生き方とか仕事ができる可能性が生まれます。そういう意味では、もしかしたら男性よりも多様な生き方ができるかもしれないと思います。学生の皆さんに伝えたいことは、その都度自分で選択できるように、自分の考え方とか決断に自信を持てるようになってほしいと思います。いろいろな生き方があっていいし、パーソナリティも多様であっていいと考えるからです。一人一人が良いものや輝く部分を持っていますから、そういうものを発見して伸ばしていくために4年間を過ごしてほしいと思います。心理学はそういうものを見つけるためのさまざまなヒントを与えてくれる学問です。学んだことがそのまま自分の生き方にも還元できるという意味ではすごく魅力的な学問だと思います。私も子育てと仕事の両立が何とかできてきたのは、心理学を学んでいたからこそだと思っています。そういう意味では、心理学科の学生さんたちには多くのことを学んでそれを取り入れ、自分のために生かせるようになってほしいと思います。

藤崎先生 × オンライン授業制作秘話

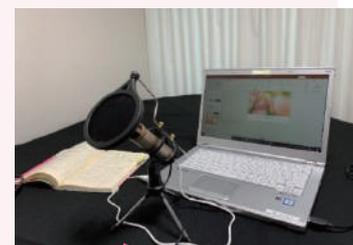
大特集



○オンライン授業は、スライドづくりや音声吹き込みなどどのような流れで作っていますか？

一動画作成の流れは以下のような感じです。

1. まず、パワーポイントを、1回の授業につき、だいたい2セット（動画2個分）作ります
2. パワーポイントのスライドに音声を吹き込みます
3. この段階で一度、パワーポイントを動画にエクスポートします
4. 動画を動画編集ソフト（Adobe Premiere Pro）で読み込んで、吹き込んだ音声のノイズを減らしたり、歯擦音の軽減をしたり、音量を調節したりといった、音声を聴き取りやすくする処理をします。
5. 動画をいくつかカットして、間にデモなどを挟み込みます。必要に応じて新たにデモを作ることもあります。
6. 全体に薄くBGMを付けます
7. この段階でもう一度、動画をエクスポートします。
8. 動画は1回の授業につき2個のことが多いので、ここまでの作業を繰り返します。
9. 出来上がった動画をYouTubeに限定公開としてアップロードします
10. YouTubeの動画をmanabaのコンテンツに埋め込みます。



ある日の録音風景

○一回の授業をつくるのにどのくらいの時間がかかりますか？

一動画作成に丸一日、フィードバックのスレッド作成も合わせると1回の授業をつくるのにかかる時間は1.5日～2日くらいでしょうか。オンライン授業の方が対面授業よりも、10倍くらい、いろいろな準備に時間がかかっていると思います。

○オンライン授業づくりの作業はどこでしていますか？

一音声の吹き込みは自宅の4畳の部屋で行っています。コロナ禍の前に、自宅の6畳の部屋を4畳の防音室にリフォームしてグランドピアノを入れたのですが、その後すぐにコロナ禍になったので、グランドピアノにカバーをかけて、その上にパソコンとマイクを置いて、臨時のオンライン授業収録スタジオとして使っています（笑）。吹き込み以外の作業は、大学でやることもあります。自宅で行うことの方が多いですね。

○(ゼミ以外の授業を) zoom ではなく、講義動画で授業を行うことにした理由はありますか？

—私の場合は、対面授業の時からそうなのですが、見たり聴いたりして実際に体験していただくデモが多い授業なので、Zoom だと音声途切れたり画質が悪くなったり、ネットワークの調子が悪いと接続が切れてしまったりして、デモが体験できなくなっちゃうので、それがオンデマンドにしている一番の理由ですね。あとは、オンデマンドだと学生のみなさんに好きな時間に見ただけなので、ネットワークの負荷を分散できて、システムトラブルが少なくなるだろうと思っていたというのもありますね。

○授業づくりに何か工夫があれば教えてください。

—オンライン授業は工夫というか試行錯誤の連続です(今でもそうです)。動画を複数に分けているのは、集中力が続くのがそれくらいだろうというのもありますし、容量的な制約もあってそうしています。

私が講義動画に BGM を付けているのは、

1. コロナ禍のオンライン授業で不安になりやすいと思うので、まずは講義をリラックスして受けてほしい
2. この BGM が流れている間はこの講義であると感じてほしい (ON と OFF で気持ちを切り替えられるように)
3. 講義を録音する際にどうしても入ってしまうノイズをマスクしたい (ノイズリダクションをかけていますが、それでも取り切れないノイズは BGM で隠しています)
4. 学生のみなさんがこの講義を受ける際の周りの生活音をマスクしたい (集中力 UP を期待)
5. 「1 分間で〇〇を記憶してください」というようなアクティブラーニングをするときに別の BGM に切り替えることによって対面授業のような臨場感を演出したい、
といったような理由です。

○藤崎先生の授業では、フィードバックが充実していますが意識していることはなんですか？

—フィードバックについて最近意識していることは、授業の半分は講義動画で教員が作るけれども、残りの半分は、受講生と教員がフィードバックのスレッドで一緒に作りあげる (オンデマンドだけれどインタラクティブに、他の人と一緒に受講している感を大事にする) ということですね。

コロナ禍の最初のころは、私自身のエネルギーの配分は、講義動画のクオリティをあげることに 9 割、フィードバックに 1 割くらいにしていたのですが (なるべく対面授業とみなさんの満足度が変わらないようなクオリティの高い講義動画を作りたいと思っていたので)、でもコロナ禍での学生のみなさんの様子を見て、みなさんが求めているのは、もちろん講義動画が見やすかったり聴きやすかったり面白かったりするのも大事だけれども、それよりもフィードバックの方なのだとなりが付いて、途中からは、講義動画 5 割、フィードバック 5 割くらいのエネルギー配分にするように意識を変えました (講義動画の質を落としたという意味ではないですが笑)。

受講生全員分のリアクションペーパーの抜粋を匿名でスレッドに掲載してそれに対して私がフィードバックを返して、受講生全員がそれを見られるようにする、というやり方にしてからは、学生のみなさんのリアクションペーパーがどんどん長くなっていったり内容も深くなっていったり、スレッドも盛り上がるようになっていきました。オンデマンドでもこれだけ受講生のみなさん同士で学びあうことができるのだ、と毎回感動しています。私もみなさんのリアクションペーパーから学ばせていただくことが多くて、毎回のスレッドは、講義が終わった後でも宝物です。

でも、もしかしたらもっと良いやり方があるかもしれない、とも思っているのですが、ひきつづきみなさんのご意見も聞きながら、試行錯誤を続けていきたいと思っています。

○先生が思うオンライン授業のメリットを教えてください。

—まずは何よりも感染リスクがゼロ、というのがオンライン授業の最大のメリットだと思っています。

私は、コロナ禍の最初のころに、慶応大学の環境情報学部長の脇田 玲先生が慶応の学生みなさんにあてて HP に掲載された「家にいる。自分と大切な人の命を守れ。SFC の教員はオンラインで最高の授業をする。以上。」というメッセージを拝見して、とても感銘を受けたのです。コロナ禍という人類全体の危機において、私は医療従事者ではないから直接命を救うような貢献はできないけれども、大学の一教員としてこの状況で私がすべきことは、最高のオンライン授業を学生みなさんに提供することだと思ったのです（大学教員の仕事には教育のほかに研究やそのほかの業務もあるのですが、ひとまずその話はおいておきます）。当時は、オンライン授業は対面授業に比べて質が悪い、というような意見もよく目にしていて、そう言われたいような授業、少なくとも私の対面授業を過去に受けたことがある人の満足度と、私のオンライン授業を今受けている人の満足度が同じになるような授業を提供したいと思って、私にできる範囲で、試行錯誤してきました。

そのような試行錯誤を続けていく中で、オンラインならではのメリットというのもいろいろ感じられるようになってきた感じです。例えばオンラインでなければできないデモも実施できましたし、受講生みなさん同士がスレッド上で話が盛り上がるということもオンラインでなければできなかったことだと思います。

○オンライン授業で大変なことはありますか？また、困っていることがあれば教えてください。

—大変なことは、けっこうありますね（笑）。例えば、丸1日くらいかけて、フィードバックを Manaba のスレッドに書いていて、あともうちょっとで完成というときに Manaba がダウンして、それまで書いていたものが全部消えてしまったりとか（笑）。スレッドは下書き保存とか予約とかができないので、そういうことがたまにあると最初からやり直しになってダメージが大きいですね。あとは、実は学生みなさんにはお見せしていないところで、けっこうたくさん、撮った動画をボツにして撮り直しをしています（きっと他の先生方も同じようなご経験をされていると思います）。

困っていることは、対面授業だとみなさんの反応を見ながら授業ができるのですが、オンラインだと反応がリアルタイムでは見えないので、どんなテンションでしゃべったらいいんだろう、とパソコンの前で一人悩む、といったことがよくあります（笑）。例えば心理学概論 I で「私は誰でしょう Quiz～」とかハイテンションでしゃべっていて、この先生だいじょうぶかなあ、とか思われていないか、ちょっと心配です（笑）。

○オンライン授業の受け方についてアドバイスがあれば教えてください。

—メモを取ることをおすすめしたいです。全部の授業でやっていると大変かもしれないけれど、自分が面白いなと思ったことをノートにとって記録に残しておくことで勉強になるし、記憶にも残りやすいと思います。

○最後に学生に向けてメッセージをお願いします！

—コロナ禍が長期化して、なかなか大人数の講義でみなさんにお会いすることができない日々が続いていますが、いつか状況が落ち着いたら、みなさんとゆっくりおしゃべりしたいなと思っています。

学生みなさんには、身体の健康と心の健康の両方に留意して、とにかく楽しむことを諦めずに、なんとか工夫して学生生活を楽しんでほしいです。

あと心理学科では、コロナ禍で情報不足になりがちなところを補えるように、心理学科オリジナル Web ページで情報発信を頑張っているのので、ぜひそちらも有効活用していただくと嬉しいです！

中神先生 × コロナ禍での先生方事情



○コロナ禍で純粋に感じたことはなんですか？

—3月頃からコロナが広まり、授業が始められないかもしれないという情報が入ってきて、通常の新入生オリエンテーションを急遽変更し、オンラインでの対応をしなければならなくなりました。非対面でのように一年生を迎えればいいのか…オンライン上でのオリエンテーションは私たちにとっても未知な領域でした。しかもデータが重くならないようにデータサイズを絞りながら（データダイエット）やっていかなければいけないと言われた時期でした。私たちもオンラインのあれこれをそれほどやったこともないし、何から手をつけていいのか分からない状況で対応に悩みつつも、まずは zoom というのを先生達同士でやってみようというところから始まりました。manaba は以前から授業で使われていたけれど、今のようなハードな使われ方はしていませんでした。

そのような状況で新生が、オリエンテーションをどこまで理解出来たのかがとても心配でした。そこで manaba のアンケート機能を使って、数回自己点検を回答してもらい、全体の進捗度を把握していました。そのアンケートにリアクションがない人には、一人ずつ電話をかけて個別に状況を確認をしました。このように混乱した中で、今の四年生である当時のオリエンテーション委員が、大活躍してくださりました。大学からはオンラインでやるから委員の仕事はないですと伝えられたのですが、オリテ委員の方から「ダメじゃないなら Twitter で質問を受け付けたい」と申し出てください、Twitter での大質問会が展開されたのです。新生が大学に自ら質問するというのはハードルが高く、先輩の学生が窓口を開いてくれたのは学科から見ても本当にありがたかったです。上級生が一年生のために何かしてあげたいという思いに溢れた Twitter だったと思います。そのおかげで履修登録が出来なかった人はいませんでした！新年度で、在學生にとってもコロナの状況についていくのは大変だったと思います。その状況の中、今の四年生だけではなく三年生も、当時の一年生に「ようこそ」と伝えたいとたくさんのメッセージを書いてくれました。このように、学生さんたちが一緒になって走ってくれたなと感じています。

アドバイザーの塩崎先生や藤崎先生はもちろんのこと、他の先生方も新生を気にかけてくださっていました。心理学科全体が一人一人の学生のこと各学年のことも気にして考えてくださっているなあと感じていましたし、上級生が取り組んでくれた Twitter で心理学科の皆さんの可能性を改めて見せてもらい感激しました。大変な場面も数多くあったけれど、悪いことばかりではなかったかなと思います。ただ、なるべく早い時期に顔を合わせる機会は、絶対に逃したくないというのがありました。なかなか対面授業が再開できない中、実験 I だけは死守したいなという思いでした。

○オンライン授業はどんなふうに準備していききましたか？先生方での講習会がありましたか？

—一番初めに作成した動画が、オリエンテーションのためのものでした。何をどうやったら動画を作れるんだっけ？というところから始めて…どうやらパワポに音が当てられるらしいよ程度の知識でやりはじめたのです。授業の動画なども先生方が各自で工夫し準備していて、講習会などがあったわけではありませんでした。私は暫くするとパワポで録音するのがもどかしくなり、伊村先生から教えていただいた 1 人ズームを録画・編集する方法をとるようになりました。途中で嘔んだり、人が来たり、どんなに長くなっても、1 回で録画して、見やすいように編集していました。小さいけれど顔も出して、授業をしている感が伝わったかなと思います。そのような中、メディアセンターの人がすごく頑張ってください、学生さん向けにもいろんなハウツーを出してくれたり、非常勤の先生も含め教員用に様々なマニュアルを作ってくださいました。本当に感謝です。あと細かい部分はグーグル先生に聞いたりして、なんとか形にしていました（笑）

○（2020年に）中神先生は一年生カフェという名前で一年生同士の交流の場を zoom で開いてくださいましたが、一年生カフェの企画の経緯を教えてください。

—manaba や名簿で名前をすごく見てるのだけれど、顔を一回も見えていないな、会いたいなと私自身が思っていました。とにかく一年生がそれぞれどうしているのかが気にかかっていました。

当時は1回目の緊急事態宣言下で、あまり外にも出られない時期だったので、家族以外の人と話をする機会を持てればということから始まったものです。私が個人的に企画をして人を集めていましたが、基本的には私はオブザーバーで、1年生が喋りたいように喋ってくれるといいなと単純に交流する場所が提供できればと考え、何回か開催しました。少しでもお友達作りや心理学科1年生としての所属感につながったらという思いでした。その人たちも2年生になりましたが、アドバイザーの塩崎先生や藤崎先生が気にかけてくださっていて…後期になって学校に来る機会が減る人もいるから何かやります？という話は時々しています。

○2020年9月に開催して下さったオンライン入学式の、開催までの背景を教えてください。

—本来ならば夏休みに教養特別講義で軽井沢に行くのですが、軽井沢には行けずオンラインで行うことが決まりました。オンラインで二日間、何をしたらよいのかを先生方が考えてくださる中で、入学式に代わるものを実施しようと提案がなされました。1年生同士が交流する機会と、学科として正式に皆さんのことをバックアップしてますよというのを示したかったんです。それから、学科の先生の顔を1年生にきちんと見てもらいたいというのもありました。アドバイザーの塩崎先生と藤崎先生を中心に、どこまで入学式を再現できるかわからないけど、やってみようということになったのです。最終的に学科会議で他の先生方にもお願いして、9月の入学をお祝いする会に至りました。その時に藤崎先生が式なのだから式らしくしたい、4月に着ようと思って用意した服がある人もいるだろうから、真夏だけど家でエアコンかけてスーツを着てもらおうと提案して下さり、皆さんにはスーツでZoomにご参加いただきました。そして最高だったのは藤崎先生のエコーのかかった司会。「そのマイクすごい！」（笑）とても「式」でした。本当に、それはもう藤崎先生のこだわりが詰まった素晴らしい企画でした。当時1年生がどう感じたのかはよく分からなかったけれど、きちんとお迎えしてあげたかったという気持ちがお伝え出来たのならよかったなと思っています。

○コロナ禍で、対面授業を行う上で心がけていたことを教えてください。

—心理学実験Ⅰは、週に1回の非常に貴重な時間だなと考えていました。離れた地域からZoomで参加している人がいることを他の学生にも知って欲しかったのと、その人たちが2年生になって合流した時に、疎外感を持たずにスッと「あのときの〇〇ちゃんだね」という形で、大学で出会って欲しいという思いがあり、教室からZoom側に声をかけるように促していましたね。ただ、ハイブリッド授業の大変さというのは現在でも強く感じています。デバイスやシステム的な問題だけではなく、どうしても現地にいる人に対して話をする形になるので、オンラインで受けている人たちにとっては分かりづらかっただろうなという反省点がありました。実際に実験Ⅰでは、遠隔のグループは対面の人とは別に実験をしてもよかったかもしれないけれど、大学にみんなが来ているという雰囲気を伝えたかったのもあり、難しいなと思いつつもハイブリッド授業を行っていました。一方で私が担当していた心理学統計法については、2020年度はオンデマンドで楽しく分かりやすいものを作ろうと心がけていました。疑問があった時に、なるべく困らないように補足の解説動画を丁寧につまみです。それでもちょっとした聞きたいことはあったでしょうね。リアルタイムに質問できる機会も設けられたらよかったかもしれません。その辺の難しさを感じながら、今も手探りでやっています。今年度の統計は対面で実施できました。その場で板書しながら説明ができる良さを再認識しました。

○心理学科の学生に向けてメッセージをお願いします。

—私は心理学科に入ってくださった皆さんが大学生として自由にのびのびと、一つでもいいから楽しく感じられる時間を持てるような場面を提供したいと思っています。こういうことをやりたいと発案をしてくれたら、こちらはなるべく叶えられるようにサポートしたいです。だから、変なおもしろい発案があったらどしどしお寄せください（笑）。楽しい企画をお待ちしております！皆さんのことはいつだって見守っているので、いつでも気軽に中央研に立ち寄って相談しに来てくださればいいし、相談ではなく「ただ来た」だけでいいのです。中央研では癒しのためにメダカも飼っておりますし、「メダカを見に来た」と顔を見せてくれると嬉しいので、ぜひお立ち寄りください！



塩崎先生、藤崎先生、中神先生ありがとうございました！

コロナ禍でのリラックス方法



青木先生

コロナ禍での家族、コミュニケーションにおける一番の問題点と解決策

コロナ禍で家にいる時間が増えたため、トラブルが増えたというお話はよく聞かれます。顔を合わせる機会や、共有スペースを使う時間が増え、それまでは自分一人の判断でできたことが、他の家族の都合も考えなくてはならなくなります。そんな時、家族は最も身近で、一番わかってほしい存在であり、「言わなくてもわかるはず」という気持ちができやすいのです。うまくいっているときはそれでよいと思いますが、こじれ始めると、「(わかってほしいのに)(わかってあたりまえなのに) どうしてわからないの？」というイライラや怒りが生じやすくなります。

考えられる解決策としては、上手に距離を取ることが大切です。物理的に難しいことも多いのですが、心理的には、相手が自分とは違う個人であることを認識することから始まります。「わかっているはず」をいったんわきに置いて、相手話を聴いて考えを知ろうとしたり、自分の思いや考えを把握して、相手に配慮しながらできるだけ正確に伝えるように、努力することが挙げられます。

こういう時には例えば、アサーション（自己表現）の考え方が役に立ちます。私(アイ)メッセージを上手に使えるといいですね。また、一緒にいることのデメリットが目につきやすくなるのですが、メリットにも目を向けていけるとよいですね。



コロナ禍の楽しみ

庭の手入れをしたり、草花を育てたりするようになり最近ハマっています。草花が成長した姿を見るのは楽しいですし、手ごたえのない不安の多い生活の中で、達成感にもなりました。そして、シンプルに、キレイです。それから、以前から行っている散歩も、楽しみです。川沿いを歩いて川鳥が餌をとっている様子を見るのが好きですね。皆さんにも気分転換になる散歩はお勧めです。

9月末にはコスモスが綺麗だったそうです！



コロナ禍で学生に気を付けて欲しい点がありますか？

困った時やストレスがたまった時は悩みを一人で抱えない様、共有できる機会を大切に、つらい時は自分からヘルプを出してほしいと思います。先生方や大学のカウンセリングセンター、ピアサポート（杏彩館 2F）にぜひ相談してみてください。

藤崎先生

基礎心理学の観点から、おすすめのリラックス方法

基礎心理学の観点からと言われるとなかなか難しいのですが（笑）、基本的なことが大事なのではないかなと思っています。朝の日光浴とか、家でできる運動や寝る前のストレッチを生活に取り入れてみたり、Zoom などでも良いのでちょっとでもお話したり、というのも良いと思います。後は、目が疲れたら音楽を聴く（聴覚を使う）とか、目も耳も疲れたら、香りの良いお茶を飲んでみる（嗅覚と味覚を使う）とかアロマを焚くとか（嗅覚を使う）、違う感覚を使ってリラックスしてみるのも良いのではないのでしょうか。趣味をすることもおススメですし、逆に、何もしないでぼーっとする時間を作るのもおススメです。



コロナ禍による知覚世界への影響と解決策

物理的に人に触れる機会（握手やハグなど）がかなり減ったのではないかと思います。解決策というのは難しいですが、特に一人暮らしの人にはそういう寂しさもあるということを知り、周りの人が理解してあげる、というのは重要なことだと思います。また、学校などで人に会ったときに、感染防止には十分に気を付けつつ、触覚的なコミュニケーションを心がけてみるのもいいかもしれません。マッサージを自分でしたり、柔らかいものに触れるのもいいかもしれません。

あとは、マスク生活で、顔や表情がわかりにくいと、本当にいろいろ苦労しますよね。解決策というのはやはり難しいですが、みんな同じ苦労を多かれ少なかれ感じているので、名前を間違えても間違えられても「お互い様」と思うのが良いのではないかと思います。私のゼミでは、ゼミ生のみなさんに自分の写真を送っていただいて写真帳を作っています、お互いのマスクの下の顔を知っていただくようにしています（私自身もそれでゼミ生のみなさんの顔を覚えていきます）。

実際にされているリラックス方法にはどのようなものがありますか？

スキマ時間に5分だけでもピアノを弾いたりしています。あとはストレッチをして身体をほぐしたり、自宅でスキマ時間にできる運動をしたり。ハーブティーで気分転換したりもしています。あとは自宅で手軽にできるハイドロカルチャーという方法でミニ観葉植物をいくつか育てています。自分で世話をしたグリーンが自分の視界に入るとストレス緩和とかいろいろ良いことがあるという論文を昔読んで、その時から実践しています。効果のほどはわかりませんが（笑）。

ハイドロカルチャーで
ポトスやパキラを育てるのがおススメ



堀江先生

心理療法の観点から見ておススメのリラックス方法

まず自分の気持ちを把握しましょう。自分の状態を正しく把握することは、その後の適切な対処につながります。そして自分の気持ちを言語化します。それがネガティブであっても否定せずに肯定することが大切です。それを人に聞いてもらうことも重要になります。女性は結構誰かに聞いてもらうことができますが、男性はあまり行いにくいようです。



コロナ禍のおかげでできた趣味のようなものと、学生におススメしたいこと

感染者が少なかったときは地域の昼食を食べたりしていました。今は目白キャンパス周辺を歩き回ってお土産を買って帰るなどして、意識的に歩いています。

雑司ヶ谷にある、アカマルベーカリーのプリンがおススメです。今時珍しい昔ながらの固めのプリンで、とても美味しいです。

＜アカマルベーカリー＞
外観もレンガ造りでとてもオシャレ！
お店の前にお花もたくさんあり、
雰囲気のあるお店でした



コロナ禍でのストレス解消方法

食べ物を食べたり、食べ物のために歩いたりしています。寮のあたりの雑司ヶ谷に繋がる細い路地にノラ猫がいたり、おじいちゃんおばあちゃんが植木鉢に水やりをしたり、軒先にいたりして、下町情緒があります。

コロナ禍だからこそ、できること

コロナ禍だからこそやっている研究が多く、海外のものもネットで見られます。英語が得意ではない人も、DeepL 翻訳などを英語の文献を活用して読んでみると良いと思います。例えば、ドイツの孤独感についての研究では、女性や若者、低所得者が孤独感を感じやすいというように、メンタルヘルスに違いがあることがデータとして出ていたりもします。

<おうち時間で読めるおすすめの本や動画>

藤崎先生

・ぼくを探しに (原作 The Missing piece、Silverstein 著、翻訳：倉橋由美子、講談社)

・はぐれくん、おおきなマルに会う (原作 The Missing Piece Meets the Big O、Silverstein 著、翻訳：村上春樹、あすなろ書房)

色々な読み方ができますが、
何か足りないことは
必ずしも悪いことではなく、
幸せの形は色々なのだと
考えさせられます。
ご機嫌で歌っているイラストが
可愛い。



「どうせできないと
あきらめるんじゃないかと、
とにかくやってみよう！」
という気持ちになれるかも。
単独でも読めると思いますが、
「ぼくを探しに」を読んでから
読む方がおススメ。

中央研究室で読めます。英語版は藤崎先生の研究室まで。

社会心理学的な内容。感染症の後ステレオタイプや、
風評被害、差別や偏見がやってくる

堀江先生

・「ウイルスの次にやってくるもの」日本赤十字社 (YouTube)

・「異なる景色」三浦麻子、村上靖彦、平井啓



インタビュー記事で事実を知り、
ステレオタイプの偏ったイメージから自由に

青木先生、藤崎先生、堀江先生
ありがとうございました！



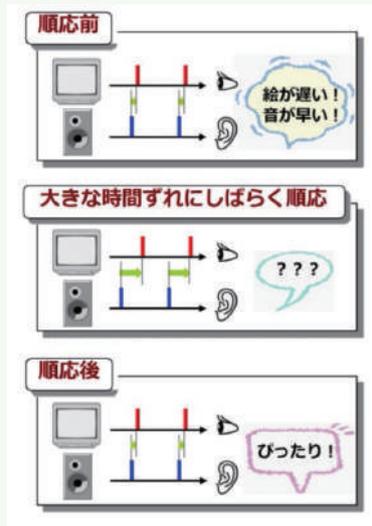
「藤崎先生はどのような研究をされているのですか？」

学生の頃や大学院生の頃は、絶対音感を持っている人と持っていない人の違いはどこにあるんだろう、といったことをひたすら考えていました。絶対音感保持者と非保持者の基礎的聴覚能力や音高知覚特性を調べる実験漬けの日々を送っていました。私の卒業論文、修士論文、博士論文は全て絶対音感に関わるものです。

その後の研究は色々なのですが、博士論文終了後からは聴覚から視聴覚にテーマを拡げ、視覚と聴覚の時間のズレに対して人間の知覚系がどのように適応していくか、という研究に従事しました(左図参照)。この時の研究は *Nature Neuroscience* という論文誌に掲載され、現在までに六百件くらい引用されています。

その後も感覚間の同時性知覚(時間知覚)の研究を継続していき、現在は視覚と聴覚だけではなく、触覚や身体運動、感覚フィードバックといったところまで、研究の対象を拡げています。さらに多感覚間の質感知覚の研究もさまざまに展開しています。

ここで、多感覚の質感知覚の研究を一例をご紹介します。ガラスをスティックで叩く映像に、「ガラスを叩く音」をつける、被験者さんは「ガラス」の質感を感じます。しかし、同じ映像に「野菜(パプリカ)を叩く音」をつけると、被験者さんは「プラスチック」の質感を感じます(デモ参照)。



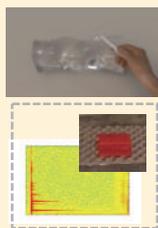
こちらのQRコードからデモ動画をご覧ください



デモ①

映像「ガラス」
音「ガラス」

被験者さんは「ガラス」の材質感を感じます。



デモ②

映像「ガラス」
音「野菜(パプリカ)」

被験者さんは「プラスチック」の材質感を感じます。



Fujisaki et al., 2014, *Journal of Vision*

「藤崎先生はどのような研究をされているのですか？」

藤崎和香先生

日本女子大学では、「心理学研究法」「心理学概論」「知覚・認知心理学II」「多感覚心理学」の授業や3.4年生のゼミなどを担当。藤崎先生の個人ホームページはこちらから



映像単独では透明な物体はガラス、プラスチック、氷、ゴムなどにも見えますし、音単独でも、「カーン」という音は、ガラスかもしれないし、金属かもしれないし、陶器かもしれないし、面白いのは、映像単独でも音単独でも素材の知覚は一つには決まらないけれども、視覚と聴覚の両方を合わせる一つに定まるということです。この研究は、このような多感覚の統合の論理を明らかにしたものです。「社会と研究のつながり」という観点でいうと、質感研究の方が企業の方との共同研究は多いです。でも、質感研究ができていないのは、これまでの色々な研究の蓄積があつてのことなので、一概にどうとはいえないかなと思います。

藤崎先生に聞いてみた

研究者としての先生



テーマ 社会と研究のつながり

インタビューのきっかけ

心理学の研究は、どのように社会に活かされているのか。
世の中にサービスを提供する一般企業とも関わりがありそう、でもどのような関わりがあるんだろう。そんな疑問を、藤崎先生に答えていただきました！

「……大学の先生の研究はどのようなものがあるのでしょうか？」

企業とコラボレーションして研究を社会にフィードバックしていくことも重要ですが、それだけではなく、学術目的のいわゆる基礎研究も重要です。強い基礎があつての応用ということもありますね。ただ、もともと学術目的だったけれど結果的に社会に大きなインパクトを与えることになった研究もあるので（例えば、音声の圧縮技術は、生まれた時は基礎研究でしたが、半世紀を経て携帯電話になくてはならない技術になりました）、そんなに境目がはっきりしていないのかもしれません。

「……一般企業と研究はどのような関わりがあるのでしょうか？」

研究は、大学だけがやっているわけではありません。例えば理化学研究所や産業技術総合研究所のような国立研究開発法人もありますし、商品やサービスを世の中に提供するために研究所や研究機関を持っている企業もたくさんあります。企業も、全ての研究を自社で賄えるわけではないので、必要に応じて専門の研究者と共同研究する場合があるということですね。また、産学官（企業「産」、大学・研究機関「学」、行政「官」）の共同プロジェクトというものもあります。

大学の場合は、研究者の自由な発想で研究するというのもあつていいし、喫緊の世の中の課題を解決する研究というものもあつていいし、五十年後、百年後あるいはもっと先の未来に役立つ研究があつてもいいし。そういった自由や多様性が、研究全体の進歩や活性化には必要ですし、私たち大学の研究者は、色々なタイプの研究にその時々で関わっているということではないかと思えます。

あとは企業が大学の研究者と組みたいと思つてくださる時には、私たちの専門性に期待してくださる部分が大きいので、基礎や応用といった枠組みにとらわれずに専門性の研鑽に努めるというのが、大学の研究者に求められることかなと思つています。

RRA 2021年 活動報告

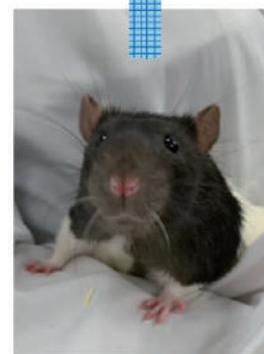
RRA(ラットリサーチアシスタント:通称ラットスタッフ)はラットの飼育、管理を行うことを目的とした組織です。伊村先生、中神先生、全沢先生を筆頭に1年生から大学院生まで在籍しています。

ラットとは？

ラットはクマネズミ属-ドブネズミ(学名: *Rattus norvegicus*)で、野生のドブネズミを改良して作られた飼育変種です。我が心理学科では、1年生の心理学実験Ⅰや4年生の卒業研究(最近の卒論題目:「ラットにおける鏡映像自己認知」「ラットにおける食物選好実験」など)で活躍します。

心理学科に迎え入れた時は、手のひらサイズのラットが、今では両手ほどの大きさに成長しました。2年前は、11匹のLong Evans系統(白黒の身体)のラットをお世話しましたが、今年は、例年より少ない4匹のWistar系統(白い身体に赤い目のアルビノちゃん)のラットを迎えお世話しました!今年は大人しい性格のラットが多く、学生も安心して関わることができました。

1、2年生は初めてのお世話でしたが、上級生のサポートのもとラットリサーチアシスタント一同1年間楽しくお世話してまいりました!



西生田から目白へ

2021年のキャンパスの移転に伴って、ラットのお世話の場所も西生田から目白に移動することとなりました。そこで、現3年生が覚えている範囲での西生田と目白のお世話の違いを紹介します!

まず、西生田キャンパスのラット飼育室は、自然豊かな西生田の森の中でしたが、目白キャンパスでは、八十年館の屋上にあります。毎日山登りをしていた2年前とは対照的に、7階までエレベーターで昇っています(笑)。また、現在の飼育用ケージはまるでラットのマンションのよう。中を太い管が通っておりいつでも空気が循環しています。西生田では、現在の実験用ケージを使っており、洗った後はしっかりと乾かしていましたが、今ではケージをはめ込むだけで乾くのです!餌やケージの床に敷く木のチップは西生田で使っていたもののままです。しかし、ケージ内の通気口のフィルターを塞がないよう、チップをたっぷり入れたい気持ちをぐっと堪えて少量にしています。

また、現在はTeamsとOneNoteを使ってラットの飼育情報を毎日全員で共有しています。ラットの体重を毎日エクセルに入力してくれているスタッフがいるため、ラットの日々の成長がより分かりやすくなりました。

コロナ禍という特別な状況で以前とは飼育環境も変わっていますが、スタッフ全員で試行錯誤しつつ大切に育てていきます!



代表より

こんにちは！RRA代表の湯本です。2020年はコロナ禍で思うようにラットスタッフの活動ができず、もどかしい1年でしたが、2021年はラット4匹を迎えることができました！また、たくさんの1年生、2年生が入ってきてくれたことも嬉しかったです！

RRAは代表の私と、副代表の稲葉さん、漆原さんを中心に運営しています。代表、副代表の主な仕事としては、先生方からの連絡を全体に共有したり、ラット会議で使う資料を作成したり、お世話やシフトに関して全体に指示を出したりと様々です。2年生の時はコロナ禍で活動ができなかったため、代表になった実感があまりありませんでした。ですが、3年生になって4年生の先輩方からラットスタッフの運営を引き継ぎ、様々なことを任せてもらえるようになってから、代表になったこと、上級生になったことを自覚しました！大変なこともあります、それ以上に先生方、先輩方、副代表に支えられ、充実感、達成感、やりがいを感じる瞬間がたくさんあります！

ここまで読んでくださりありがとうございます！ラットの紹介やキャンパス移転によるお世話の変化、1年生、2年生が書いた記事もあるのでぜひ最後まで読んでみてください（^^）



1年生より



私たち1年生がラットスタッフのお仕事を始めてから約2ヶ月が経とうとしています。心理学科の先輩方に多くのことを教えていただきながら可愛いラットたちのお世話に関わることが出来て、毎日が本当に楽しいです！ラットの表情の豊かさやククリの目など、沢山のラット可愛いポイントを発見することも出来て癒されながらお世話に取り組んでいます。

ハンドリングがまだ上手にできないため抱っこした際に鳴かれてしまうことが私たちの課題ですが、積極的に先輩方にアドバイスをいただいて怖がらせないお世話を覚えていきたいと思っています。またラットスタッフになり実際にお世話に関わることで、動物を用いた実験における命の尊さを改めて実感し、小さい命に協力してもらって私たちが実験できていることに常に感謝をしようと強く感じるようになりました。

これからもラットの心地よい生活のため、積極的にお世話に取り組んで沢山のことを学んでいきます！

ハンドリングとは実験前にラットを人に馴れさせるための手続きです！

2年生より

こんにちは！ラットスタッフの2年生です！新しいラットを迎え入れ、お世話を始めて早3ヶ月が経ちました…今回は、ラットのお世話で楽しいことと大変なことを紹介したいと思います。

私たちがお世話で楽しかったことは、ラットの成長が目に見えて分かることです！月に2から3回お世話をしておりますが、ラットたちはどんどん大きくなっています。また、ほぼ毎日スタッフがハンドリングを実施しているため、人にも慣れてきてとても可愛いです。

お世話を通して大変なことは、ハンドリング中に活発なラットを捕まえることです。私たちもお世話を始めたばかりでコツも掴めずにいるので大変ですが、ラットとより仲良くなれるよう日々頑張っています！

まだまだ未熟な私たちが1、2年中心のお世話には不安も募りますが、先輩方を見習って仲良く活動していければと思います。これからのラットの成長がとても楽しみです！



第 26 回心理学科の会総会

2021 年 11 月 17 日(水)、第 26 回心理学科の会総会が行われました。

出席者 30 名(対面・オンライン)/委任状 250 名により会費納入者 520 名の過半数を超え、総会が成立しました。

○会長の交代、新会長ご挨拶

前会長) 中村眞理 氏 (心理学専攻博士後期課程単位修得済み退学)

2 期 4 年在任していただきました。

新会長) 安江みゆき 氏 (心理学専攻博士後期課程単位修得済み退学)

新会長(2 年任期)が承認されました。

○2019・2020 年度活動報告/決算報告

(活動報告)

2019 年度

・ 総会開催《日女祭同時開催 2019 年 10 月 19 日 (土)》

・ 講演会 2019 年 10 月 19 日 (土) 西生田キャンパス B 棟 34 番教室

講師：上智大学総合人間科学部心理学科准教授齋藤慈子先生

題目：ネコの世界～ネコの認知とヒトとの関係～

・ さいころじん (第 25 号) 発行

・ 委員会

2020 年度

・ 活動なし (新型コロナウイルス感染蔓延のため活動自粛となりました)

(決算報告)次頁参照

○2021 年度活動方針・事業案/予算案

(活動方針・事業案)

・ 学科のオリジナル Web ページの活用を促進する

・ さいころじん (第 26 号) 発行準備

(予算案)次頁参照



総会の様子

○会員承認 新会員 164 名(2020 年度・2021 年度新入生) 承認

2019年度 会計決算報告
2019.10.01～2020.9.30

収入の部 (単位:円)			
費目	予算額	決算額	適用
前年度繰越金	1,823,935	1,823,935	
入金費/会費	600,000	207,000	新入会費/会費
雑収入	20	13	利息他
心理学科助成金	179,000	182,000	大学刊行助成金
合計	2,402,955	2,012,948	

2020.09.30現在

支出の部 (単位:円)			
費目	予算額	決算額	適用
印刷費/報告書	300,000	294,200	研究成果報告書外庫印委託
会報	250,000	331,870	さいころじん, 外庫印刷委託
宛名タック紙	15,000		
人件費/発送作業	40,000		
行事費/総会運営	20,000	3,038	飲料
講演会	150,000	11,772	生花/茶菓子
親睦会	0		
事務費/送料・通信費	400,000	234,775	3月郵送代/票書代
事務消耗品	75,000		消2封筒/会員発送用
会議費	10,000		
雑費	10,000	220	郵便手続料他
学生部会活動費	50,000		
卒業生部会活動費	50,000		
次年度への繰越金	1,032,955	1,161,072	
合計	2,402,955	2,012,948	

以上、相違ありません。 2020年 10月16日

2020年度 会計予算案
2020.10.01～2021.9.30

収入の部 (単位:円)		
費目	予算額	適用
前年度繰越金	1,163,072	
入金費/会費	1,000,000	新入会費/会費
雑収入	20	利息
心理学科助成金	182,000	大学刊行助成金
合計	2,345,092	

2020.09.30現在

支出の部 (単位:円)		
費目	予算額	適用
印刷費/報告書	300,000	研究成果報告書
会報	300,000	さいころじん
宛名タック紙	20,000	
人件費/発送作業	40,000	20,000×発送2回
行事費/総会運営	10,000	資料印刷
講演会	100,000	講師謝礼他
親睦会	0	
事務費/送料・通信費	400,000	卒業生向け会報誌等郵送
事務消耗品	75,000	消2封筒他
会議費	10,000	
雑費	10,000	
学生部会活動費	50,000	
卒業生部会活動費	50,000	
次年度への繰越金	980,092	
合計	2,345,092	

2020.09.30現在

研究室部会 2019年度心理学科担当教員
川崎 直樹 (印)

2020年度は新型コロナウイルス感染症防止の為学生部会委員は選出しなかったことにより、監査は担当教員が行いました

2020年度 会計決算報告
2020.10.01～2021.9.30

収入の部 (単位:円)			
費目	予算額	決算額	適用
前年度繰越金	1,163,072	1,163,072	
入金費/会費	1,000,000	966,000	新入会費/会費
雑収入	20	13	利息他
心理学科助成金	182,000	182,000	大学刊行助成金
合計	2,345,092	2,311,085	

2021.09.30現在

支出の部 (単位:円)			
費目	予算額	決算額	適用
印刷費/報告書	300,000	256,300	研究成果報告書
会報	300,000	0	
宛名タック紙	20,000	0	
人件費/発送作業	40,000	0	
行事費/総会運営	10,000	0	
講演会	100,000	0	
親睦会	0	0	
事務費/送料・通信費	400,000	50,525	研究成果報告書郵送代
事務消耗品	75,000	0	
会議費	10,000	0	
雑費	10,000	0	
学生部会活動費	50,000	0	
卒業生部会活動費	50,000	0	
次年度への繰越金	980,092	2,004,280	
合計	2,345,092	2,311,085	

以上、相違ありません。 2021年 10月16日

2021年度 会計予算案
2021.10.01～2022.9.30

収入の部 (単位:円)		
費目	予算額	適用
前年度繰越金	2,004,280	
入金費/会費	450,000	新入会費/会費
雑収入	20	利息
心理学科助成金	182,000	大学刊行助成金
合計	2,636,280	

2021.09.30現在

支出の部 (単位:円)		
費目	予算額	適用
印刷費/報告書	300,000	研究成果報告書
会報	300,000	さいころじん
宛名タック紙	20,000	
人件費/発送作業	40,000	20,000×発送2回
行事費/総会運営	10,000	資料印刷
講演会	100,000	講師謝礼他
親睦会	0	
事務費/送料・通信費	400,000	
事務消耗品	75,000	
会議費	10,000	
雑費	10,000	
学生部会活動費	50,000	
卒業生部会活動費	50,000	
次年度への繰越金	1,271,280	
合計	2,636,280	

2021.09.30現在

心理学科の会 委員 MI
打中 真由 (印)

ロボホンが やってきた!!



ロボホンは、1年次必修科目の「基礎情報処理」や学科専門科目の「基礎心理学特講・3」等で、プログラミングの初歩を学ぶ際の教材として採用しているおしゃべりが得意な小型ロボットです。

基礎情報処理では、大多数がプログラミング初体験という状況の中、この2年間は遠隔授業で、ロボホンを動かすプログラムを作る課題に挑戦してもらいました。授業で対面できなかった皆さんのため、臨時で中央研に置かせてもらいました。

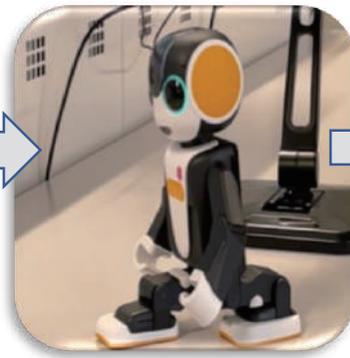
プログラミング学習に使えるだけでなく、流暢に会話ができるAIを搭載し、二足歩行のヒト型で、ダンスなどの情緒的な仕草もできるロボホンは、心理学の視点からも興味深い切り口がたくさんあるので、是非触れ合ってみてくださいね!

(助教:佐藤夏月)

心理学科中央研究室をのぞいてみると…

そこには小さなかわいいコが…! その名もロボホン君!

立ち上がるよ!



↑会話することに加え、なんと立ったり座ったりもできてしまう超賢いコ

タブレットをタッチすると授業の紹介をしてくれました。→



←ダンスもこの通り!と自慢げに見せてくれましたが、紙面では全く伝わらないので(笑)ぜひ皆さん直接会いに行ってみましょう♡

足がブレちゃってますよ。



最優秀賞

心理学科と伝えると、
「心読めるの？」と言われる
※読めません

他には、「私の考えてること当てて」などの無茶ぶりにあった方もいたそうです。
メンタリストのDaiGoさんなどを皆思い浮かべてしまい、同じことができると思われがちですね

優秀賞

みんな優しい

私はまだ入学して1年ですが、先輩も先生も同級生も、皆優しいのを実感しています笑

佳作

SNSで心理学に基づいた診断などを見ると、「あーハイハイ」という気持ちになる

以前のようなドキドキ感は減りましたね笑

佳作

学外でとられるアンケート調査などの形式が整っていないと気持ち悪い

ここはこうしなきゃいけないんじゃないの！？って気持ちになりそうですね☺️

優秀賞

実験レポートがキツすぎる👩🏻

他には、火曜日が憂鬱...火曜日は徹夜という声もありました。

佳作

4年生だけど新しいキャンパスなので気分は1年生

みんなで学内探検しましょう！

佳作

理系というか文系というか迷う

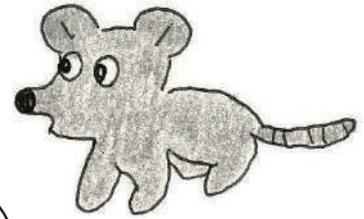
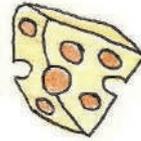
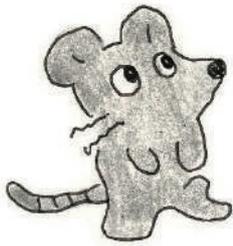
思ったよりも統計が多く、理系っぽい

私も想像していたより統計をがつりやって驚きました、

心理学科
あるある

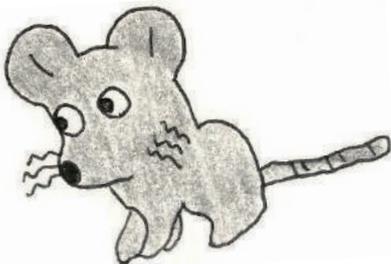
2021年度版





心理学科の会

教員	川崎	直樹	教授
教員	伊村	知子	准教授
1年	伊藤	実優	
1年	木村	美桜乃	
1年	國分	ゆかり	
1年	佐藤	寿美里	
1年	城田	千寿	
2年	小川	真由	
2年	野地	祈美花	
2年	森知	怜香	
3年	戸田	あかり	
3年	林	真由佳	
4年	大矢	りら	
4年	佐野	美咲	
M1	鈴木	里歩	
M1	武井	真由	
M1	依田	桃佳	



日本女子大学 人間社会部 心理学科
〒112-8681
東京都文京区目白台2-8-1

2022年3月発行